

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成21年8月21日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2870801285		
法人名	医療法人 浩生会		
事業所名	舞子台グループホーム		
所在地	神戸市垂水区舞子台7丁目3-6 (電話) 078-783-2225		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成21年6月25日	評価確定日	平成21年8月21日

## 【情報提供票より】(平成21年6月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 18人, 非常勤 3人, 常勤換算	19.5人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3 階建ての	2 ~ 3	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	75,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	有( ) 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (250,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	450 円
	夕食	150 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		円	

### (4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.2 歳	最低	71 歳	最高	101 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	舞子台病院・田口歯科医院
---------	--------------

## 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR舞子駅より市バス「東舞子公園住宅前」バス停下車徒歩5分ぐらいの高台に、3階建ての建て物の2・3階に舞子台グループホームがある。ホームは、舞子台病院グループに属し、医療、看護、介護、リハビリなど多様なサービスが期待できる。1階の認知症対応型通所介護の職員と情報交換をしながら自己研鑽に努めている。2・3階の室内は、畳と和室のスペースが完備され、馴染み深い和風デザインの住空間に包まれ、木製タンスや黒電話、収納家具など、細部にわたって心癒される配慮がなされている。また、ホームは、重度化や終末期に向けた方針の共有化を図るために「重度化対応・終末期ケア対応指針」を定め、契約時に家族に十分な同意・説明を行っている。その結果、利用者・家族や全職員、医療機関が意見を共有することができ、ホームでの生活が長く継続できるように支援することが可能になっている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回の評価結果を踏まえ、研修計画を明確にし、ケアマネジャーの外部研修を進めた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	管理者は、自己評価を実施しながら、職員の意見・要望を聞いている。また、自己評価を行うことによって職員がどのような支援方法が可能か、課題の整理が済んだ。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	運営推進会議は、2ヵ月に1回開催している。参加者は、「管理者」「ホーム長」「家族代表」「地域住民代表」「舞子台あんしんすこやかセンター職員」である。会議では、介護報酬改正の説明、インフルエンザ流行に対する予防対策、災害対策など社会事情を考慮したタイムリーな話題が話されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	定期的に、請求書と一緒に広報「まいこだい」だよりを配布し、月ごとの行事や利用者の状況を説明している。家族の意見、不満、苦情については、主に電話やFAX等で対応している。フロント付近に意見箱を設置し、情報を収集している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	近隣の小学生がホームに来て「よさこい踊り」を披露したり、ホームの見学会を実施している。事業所内で行事を開催する際に、地域住民に参加を呼びかけているが実現していない。今後は、自治会との連携や老人会との関係づくりなど、地域住民と交流ができる工夫が望まれる。

## 2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念として、「普通の生活、心豊かな生活、自立へとつながるように心を込めた支援を行う」を掲げ、心地よい環境の中で、一人ひとりに即した温かみある個別ケアを行えるように努力している。		地域の中でその人らしく暮らし続けることを目的とした理念づくりに、今後も継続して取り組むことが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティングで職員が理念を唱和しながら理解に努めている。また、2階、3階の事務所に理念を掲示している。新人研修時に、理念の教育を徹底させ、業務に位置づけている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の小学生がホームに来て「よさこい踊り」を披露し、ホームの見学会を実施している。施設内で行事を開催する際に、地域住民に参加を呼びかけているが実現していない。		今後は、自治会との連携や老人会との関係づくりなど、地域住民と交流ができる工夫が望まれる。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価を作成する際に、現場職員からの意見を踏まえ、ホームの課題を明らかにし、利用者や家族に見やすいよう機関紙にアニメや写真を取り入れるなど、改善に向けた取り組みを実施している。また、職員が見やすいところに自己評価票を置いている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、2ヵ月に1回開催している。会議では、介護報酬改正の説明、インフルエンザ流行に対する予防対策、災害対策など社会事情を考慮したタイムリーな話題が話されている。</p>		<p>運営推進会議の意義や役割を十分理解してもらい、多くの方に参加してもらえるよう働きかけ多くの意見を聞くことにより、より利用者のサービスの向上に活かしていくことを期待したい。また、議事録の記載方法を工夫し、他者に伝わり易くすることが望まれる。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>1ヵ月に1回、区役所内のボランティアセンターに協力を依頼して、利用者に催しを行っている。日常的に市に連絡をしたり、相互に行き来することは少ない。</p>		<p>今後は、通信機会を増やし、日常的に情報交換をするよう心掛け、連携に向けた積極的な取り組みが望まれる。</p>
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的に、請求書と一緒に広報「まいこだい」だよりを配布し、月ごとの行事や利用者の状況を説明している。また、必要な時は電話にて報告をしたり、訪問時に日常生活の様子を伝えている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の意見、不満、苦情については、主に電話やFAX等で対応している。フロント付近に意見箱を設置し、情報を収集している。また、家族会と運営推進会議を同日に開催し、ホームの運営にも意見を言える機会を設けている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動については、異動の1ヵ月前から利用者や家族に説明している。また、異動の前に月2回ほど、職員の配置換えをして、利用者が職員に徐々に慣れてもらうことで、異動によるダメージを少なくするよう努めている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修については、外部から情報を収集したり、職員の意向を聞いて、研修計画表を作成している。研修後に報告書を提出してもらったり、職員全員に回覧している。外部研修には、特定の職員のみ参加となっている。		外部研修には特定の職員の参加だけではなく、様々な職員に対して研修の機会を確保することが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス集団指導の場で同業者と話し合っている。また、他の施設を訪れて、レクリエーションを見学したりしている。		今後は、年間の活動計画に組み込むなどして、積極的に他の事業所と交流ができる機会を作ることが望まれる。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員は面接時に利用者の意向を十分に把握し、1日の流れの中で違和感を感じさせないように配慮している。利用前に他の利用者とできるだけ馴染めるように、利用者や家族にホームに遊びに来てもらっている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支え合う関係を築いている	職員は利用者から多くのことを学んでいる。たとえば、昔の「ことわざ・習わし」「中国語」「味付け」「盛り付け」などを教えてもらっている。また、職員と一緒に洗濯物をたたんだり、お互いに支えあう関係が築かれている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、利用者との面接時に、利用者の「好み」「嗜好」を聞いている。また、家族と連絡を取って、利用者が何をしたいのか、どんな思いを抱いているのかを把握している。具体的には、「気づきノート」を活用し、情報収集をすると共に、何度も利用者とは話し合い、一日の流れのなかで違和感がないように配慮している。</p>		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアマネジャーを中心に、日々の生活のなかで利用者の意見や思いを反映させるように努めている。さらに、各入居者の担当者が情報を収集し、家族の意見や希望も反映した介護計画を作成するように努めている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>1ヵ月に4回カンファレンスを開催し、利用者の生活状況を検討している。また、3ヵ月に1回モニタリングを実施している。利用者の状態に変化があったときは、本人・家族と話し合い、適切な状況に合わせた介護計画を作成している。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>職員は、本人や家族の状況に応じて通院に必要な支援を実施している。ベッド・車イスの購入方法の相談や、ホーム内の福祉用具の実践活用アドバイスや支援をしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人や家族が希望するかかりつけ医や医療機関で受診できるように支援している。また、かかりつけの医療機関に「物忘れ外来」があり、利用者が定期的を受診しているため、かかりつけ医と気軽に相談できる体制を築いている。現在は家族と相談して、協力医との連携強化をさらに深められるように努めている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>本人や家族の意向を踏まえて、最良の選択を模索している。また、「重度化対応・終末期ケア対応指針」を定めており、急変した場合には、直ぐに対応できるように家族や本人と密に連絡を行っている。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねるような声かけ、関わり、対応をとらないように注意をしている。また、カルテに個人名を記録する際に、イニシャルを活用し、保管場所には鍵を掛けて管理している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>共有スペースにおいて、利用者は「トランプ」「編み物」「切り絵」「テレビ鑑賞」「学習療法」などを楽しんでいる。好きな時間に昼寝ができたり、屋上に行って休息を取ったりしている。食事や入浴の時間の目安を設けているが、特に決まりはないので、一人ひとりのペースで過ごしてもらえ支援を心がけている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
	22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
	23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
	24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		
	25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
	26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		<p>今後は、職員同士で利用者の心身の状況や生活の変化を把握し、施錠に対する意見交換を実施し、引き続き鍵をかけないケアについて検討することが望まれる。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回、昼、夜を想定した避難訓練を実施している。緊急時のマニュアルも整備しており、各フロアーには緊急時の連絡体制が掲示されている。</p>		<p>地域住民の参加、協力を得ながら定期的に避難訓練を実施することが望まれる。また、火災以外の災害時の発生も想定して、対応できる備えを検討することが望まれる。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>管理栄養士の専門的な観点から定期的に献立をチェックしてもらい、バランスのよい食事を提供している。水分摂取表を使用して、利用者一人ひとりの水分補給を把握し、脱水や便秘にならないように配慮している。</p>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間は、畳みが敷かれ、共有の木製タンス、黒電話など昔の家具が置いてあり、生活感が出ている。また、季節感を出すために季節の花を飾ったり、クリスマスツリー、雛人形を飾ったり、居心地よく過ごせるように工夫している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>職員は、利用者の暮らしやすさ、落ち着ける空間作りを家族と一緒に相談し、使い慣れた家具や好みのものを持ってきてもらっている。</p>		

 は、重点項目。